



学校長 飛田 祥

どの学年も良かったのですが、六年生の取組、団体演技の組立体操から感じたことを書きたいと思います。

令和二年から始まったコロナの影響で、密を避けることや接触をしないということが謳われ、これを皮切りに組立体操を控える学校が増えてきました。また組立体操の何段にもなる塔や俵等を作ることに伴う落下の危険性など、安全面への配慮から全面的に組立体操の在り方が見直される傾向にあります。そのため全国の多くの学校が、「組立体操はやらない」という判断をされています。

このような懸念される部分をどのよう
に安全に取り組むかが大きな課題では
したが、六年生の担任は「肩車も俵もやる」
という選択をしました。そして担任の教

人の心を動かすにはどうすればいいかをこの半年間考えて生活してきました。

導き出した答えは、
「自分で考えて行動すること」「人任せではなく、何事も自分事として行動すること」

「やってもらって当たり前ではなく、感謝の気持ちをもって伝えること」
「誰がやってもいいことは自分たちで行動する」

何か大きなことをした先に人の心が動くのではなく、何気ない日常の垣間見える人間的な魅力が人の心を動かすのだと思います。そんな六年生でありたいと

亀小エア口を踊る児童

一〇九人で共有してきました。

「あなたがいるだけで」・・・あなたとは家族、先生、友達、下級生、地域の方々、私たちに関わってくださるすべての人のことを指しています。皆さんがいてくれたから今の私たちがあります。

六年生は、この運動会を自分事として、先頭に立って「自分たちの運動会」にしていました。そして何よりも運動会の時だけの打ち上げ花火にせず、日々の学校生活を大切にしているところに魅力を感じます。運動会が終わった今、六年生が自主的に朝の挨拶に取り組んでいることからその思いが伝わってきます。

六年生を取り上げて書きましたが、他の学年も同様に、自分の成長を自分で感じ、仲間と協力して取り組んできました。「子どもは子どもの中でこそ育つ」を体現する素敵な子どもたちばかりです。今後、子どもたちがさらに成長できる場を大切にしていきたいと思ひます。

[illegible]

十一月行事予定表

たのしかった運動会

三年

ぼくが楽しかったことは二つあります。一つ目は八十メートル走です。なぜかという、一位か二位か分からないけれど、速く走れたからです。二つ目に楽しかったことは、台風の日です。なぜかという、練習通りに走れたからです。

実は、運動会の苦手でいやなことがありました。それはダンスでした。なぜかという、いくら練習してもみんなのようにリズムに合わせて体を動かせなかったからです。前の日も不安でなかなかむねれなかったけど、本番では少しおどれて、家族にもほめられてうれしかったです。赤組は三位だったけど、みんなといっしょにがんばれたからいい思い出になりました。

こうかいのない運動会

四年

私は、運動会を終えて思ったことが二つあります。

一つ目は、黄組が二位というさんねんな結果になってしまったけれど、私は、「結果」が大事ではなく、どれだけ「本気」でやったかが大事だと思いました。理由は、本気でやって取った一位だったらすごくうれしけれど、おうえんも八十メートル走もできずにやって一位になっても何もうれしくもなんともないからです。私は、「本気」でやって二位だったからこうかいなく、運動会を終えることができたよかったです。

二つ目は、クラスで目標にしていた「南中ソーランを見て人に感動をあたらせる演技をする」「おうえん、ウルトラ声を出す」「練習も本気」を目標達成することができたことです。

来年も、運動会の練習があると思うから、練習も本気でやりたいです。

初めて応援団

四年

ぼくは、朝からうずうずしていた。なぜなら、去年の応援団のように黄組代表として応援できるからだ。今までずっとなかった応援団になれて、黄組をまとめるという大役を担うこと

ができるからだ。

しかし、いちばん最初に分かった黄組の得点は最下位だった。ぼくらの声がグラウンドにひびきわたる、他のチームの声を打ち消すような声を出して、形勢逆転した。

団長に、

「五年生のいい分、もっと声を出して！」

と言われたことから、ぼくは五年生がいなくても声が出せると同時に四年生としての意地を見せつけた。黄色いポンポンを青空に向かって投げ、何回も声援を送った。

結果は、準優勝だったが、応援団、四年一組、黄組として、一致団結することができたと思った。最高の思い出ができた。

思い出の運動会

四年

わたしはこの運動会でたくさんの思い出ができました。はじめて運動会の前に応援団に入れたことがとてもうれしかったです。なので、練習本番どちらも大きな声を出しました。結果、緑組のみんなが優勝できたので、とてもうれしかったです。

でも、本番前はとてもきんちようして、ソーラン節のふりつけをまちがえないかとても心配でした。そして、ソーラン節をおどり始めたら、きんちようしなくなつて、タイミングをずらすところも上手におどれたのでとてもうれしかったです。そして、今年は応援団として、下級生をひっぱれたと思うけど、それができたのは、五、六年生の先ばい方が自分達を引っばつてくれたからだと思いました。なので、来年、高学年になる自分に、応援団になった時、しっかりとみんなを引っばれるようになろうと思えた、そんな思い出がたくさんの運動会になりました。

運動会の前思ったこと・本番がんばったこと

四年

ぼくが運動会前にかんじたことは、二つあります。一つ目は、応援団で、いつもより大きな声を出

して、緑組が勝っても負けても最後まであきらめずにがんばれるチームにすることです。なぜかという、運動会は一年に一回しかない、とても良い思い出を作れたりするからです。二つ目は、運動会が終わっても、四年生の代表としていくことです。理由は、ぼくたちは、四年生の代表として練習をしているし、みんなにまかされていることから、みんなのためにも応援をがんばりたいです。

ぼくが運動会が終わって思ったことは、二つあります。

一つ目は、応援をいつもの練習よりも声をだせたらです。理由は、応援がみんなに聞こえないという意味がないからです。

二つ目は、四年生になってはじめて優勝できたことです。理由は、今までにぼくは優勝したことがなかったのでもううれしい気持ちでした。

また、来年も優勝できるようにしていきたいです。

「運動会をふり返って」

五年

運動会の百メートル走や棒引きの本番に全力を出し切れるように、わたしは毎回の練習をがんばりました。百メートル走の練習では速く走れるように、棒引きでは棒引きリーダーの考えでくれた作戦で全力を出してやってきました。

でも負けてしまつて、思い返した時に「あの時、ああすれば良かった。」などの後悔の気持ちや悲しい気持ちがあります。でも、この悔しい気持ちをバネにして、これからつらいことがあってもねばれるように努力しようと思いました。そして運動会を通して、協調性や目標に向かってがんばるということを学んだので、この気持ちをわすれずに、日常生活にも活かしていきたいです。

五年

ぼくは団体競技の棒引きで負けてしまい、とても悔しい気持ちと悲しい気持ちになったこと

が一番心に残りました。

ぼくは今まで団体競技で負けても、なみだが出たことはありませんでした。でも今回は、棒引きリーダーとして作戦を考えたりみんなに提案したりしてがんばってきたので、余計に悔しかったのだと思います。あの時のぼくの心は、二組に負けた悔しさとがんばっても勝てなかった事実を認めたくないというところで、心がいつぱいでした。

でも、ぼくはこの悔しさを必ず自分の今後のバネになると思います。これから先も、悔しいと感じる経験をすると思います。でも、それをあまり「悔しい」と感じず向き合うために、この先も一つ一つのことに対して本気で真げんに取り組みようと思います。

五年

私は、運動会に向けて、「全員本気！最後まで優勝に向かってかけぬけろ！」の目標を達成するために、みんなで作戦会議をしたりして、協力してきました。すると、勝ち続けることができました。でも、運動会の直前に、急に調子が悪くなって負けてしまいました。けれど、「絶対に負けたくない」という気持ちがあったので、運動会では意地を見せ、見事勝つことができました。

この、協力して最後まであきらめなかったことが心に残ります。みんなで協力できた結果なので、これからみんなで協力して、学校生活をよりよくしていけたらいいなと思いました。

五年

運動会をふり返って、ぼくは自分の目標を全て達成できたと思います。確信があります。なぜなら、本気で走り、本気で棒を取り、最後まであきらめなかったからです。

ぼくの心に残ったのは、一年生から六年生全員が、全力で競技に取り組んでいたことです。運動会に向けて必死になつて練習に取り組んできたのがよくわかったからです。必死に練習してきたから、競技はあんなに接戦だったし、演技はあんなに上手だったんだなあ、と思います。

これからの学校生活では、あきらめず、にげず、最後まで全力で問題に取り組み、こつこつ積み重ねていくことに生かそうと思います。がんばります。

「小学校生活最後の運動会を終えて」

六年

私は、小学校生活最後の運動会をふり返って、心に残ったことが二つあります。

一つ目は、当日までのいろいろな準備や練習のことです。組体操は、一ヶ月前から練習が始まりました。最初は、「難しいな」と思っていたけど、「一九九人全員がそろっている所などを動画で見て、「昨日より成長している」と感じてきて、段々と楽しくなっていました。そして、自主練習も毎日しました。すると、一日一日頂点に近づいている気がしてきました。だから、一ヶ月という長い期間、がんばりを継続できたのだと思います。

リレーでは、最初は走順が上手く決まらず、このままじゃ一位は目指せないと思っていたけど、そういう失敗があったからこそ、一人一人が真剣に考えるきっかけになったのではないかなと思います。そして、運動会当日、みんなが一位を取れたのだと思います。

応援の部分でも、練習の時は応援団の声に負けていましたが、一人一人が自分事で考え、行動したことで六年生らしい、力強くかっこいい応援の声になっていきました。ここでも、失敗から学び、成功につなげることができたことが心に残っています。

二つ目が、運動会当日の組体操表現のことです。組体操表現練習が最後だった前日の金曜日、五年生が見に来てくれてとても緊張しました。本番はもっと多くの人が見ているので、緊張で間違えてしまうのではないかと心配でした。でも、一曲目の「スターティングナウ」の曲が始まって切り替えることができました。これまで一番の技の出来だったし、「一九九人全員でそろえることができました。そして、「人の心を動かす」という目標も達成できたと思います。三曲目までの真剣な表情も、四曲目の笑顔で楽しむ表情

も、どちらも六年生の良さと伝わったと思います。

小学校生活最後の運動会は、たくさんの人の心を動かして、笑顔で終われた最高の運動会でした。これからの生活でも、たくさん人の心を動かせる六年生でありたいです。

六年

運動会は、毎年本気で頑張っていたけれど、今年はいつもとより本気で取り組めたと思います。

リレーでは、みんなが時間をかけて話し合い、案を出し合いました。応援練習では、一人一人が責任を持って練習の時から本気でできていました。みんなが何事にも本気で取り組んで、本気で練習したから「準優勝」ができたんだと思います。優勝には一歩及ばなかったけど、私の中では、みんなが優勝です。

六年生は表現をしました。表現では、リレーとはまた違って、「一九九人みんなを揃えない」といけません。当日、やっている自分でもさえも息がぴたりと泣きそうになりました。ピラミッドなどの難しい技もみんながいたから頑張れたと思います。表現練習が始まる前は、あまり前向きにできなくて、嫌だなど思うこともあったけれど、今では「楽しかった」「やってよかった」と思えるように変化しました。運動会という特別な行事があったからこそみんなが本気で取り組めたんだと思います。六年間、一緒に過ごしてきたから難しい技も成し遂げられたんだと思います。

運動会はまだ終わってしまっただけで、まだ行事が他にもあるの身につけた「何事も本気で取り組む力」を忘れず、今後も取り組んでいきたいと思っています。

六年

私は、運動会を終えて、クラス全体で成長できたと感じました。

運動会の練習が始まる前、私はあまりクラスでの団結力を感じていませんでした。でも、運動会の練習、特に表現練習では、ポジティブな発言・時間を守る、荷物などの整理整頓の三つ

を身につけられたと思います。

この練習を通して、学年全体がより六年生らしくなれたと思います。

リレーの練習では、みんなの団結力が高まってとても良い練習ができたと思います。バトンの渡し方やカーブの走り方、いろいろなことをクラスで練習しました。結果はどうあれ、頑張りについては六年一組が一位だと思いました。

私は表現本番の時、とても緊張していましたが、ほんの少し余裕ができました。それは、何年度も学年全員で全力で練習したり、家でも頑張った練習したりして、その自信が余裕に変わりました。そのおかげで完璧な演技を見ることができました。家の人にとってももらった動画を見てみて、私が一番感動したのは、二曲目の六人ピラミッドと三曲目のウェーブです。二曲目のピラミッドは練習の時よりも、さらに迫力があって自分でもすごいなと思いました。ウェーブもとてもきれいで本当に感動しました。

運動会の結果は、悔しい結果だったけど、頑張りに関しては、やっぱり赤組が一位だと思います。運動会で学んだことを生かして、もっといろいろなことにチャレンジしていきたいです。

他人と生きるということ

三年 教員

突然ですが、学校と何を教えるところなのかでしようか。「教科を教えるところ」「人との関わりを学ぶところ」「勉強ではなく人間性を育てるところ」など、人によって様々な意見があり、教師と保護者間だけでなく教師間でさえ少しづつ考えが異なっているように思います。以下に私の考えは、一個人の意見として読んでくださると幸いです。

私が小学校教員で教えるべきことは、「生きる力」すなわち「他人と生きる力」とであると考えています。生きるということとは他人と生きるということです。自分と気が合う人間だけを選んで過ごしていくことは不可能に近く、これ



から先ずつと、生まれた年や置かれた場所など偶然一緒になった人たちと過ごしていかなければなりません。周りにいるのは、助けが欲しいことを分かってくれて自ら手を差し伸べてくれる人だけではありません。お互いが気持ちよく過ごせるために、近くにいる他人と共に生きていく力をつけるのが、私の役目だと思っています。

例えば、子どもが忘れ物をしたとき、「先生、〇〇を忘れました」と伝えに来ます。私はそれに、「はい。」とだけ返します。すると子どもは、何かを感じ取ってあれやこれやと考えます。「隣の人に見せてもらいます。」「貸してください。」「コピーしてください。」「今すぐ連絡帳に書いて、明日絶対持ってきます。」「と、子ども達なりにどうすれば乗り切れるのかを考え絞ります。忘れたこと、ではなく忘れた時に何もしないのが残念なだけなのです。人は忘れ物やうっかりしたことをしてしまうものです。私もたくさん忘れることがあります。忘れたことに、自分でも考え、どう対策するのかや何をしたいのかを伝えることができるればそれで良いと思っています。助けがもらえるのを待つではなく、自分で考え行動に移すことが、他人と生きる力ではないでしょうか。

今年度の三年生の学年目標は、「かがやくきみへ」とひとりとが主人公です。誰もが主人公であり、自分が主人公の物語の中だからやいてほしいと願いを込めて学年目標を決めました。またそれに絡めて、「みんながみんな英雄を学年の歌に設定しています。その中に、こんな歌詞があります。

「振り向けば君がいる 前向けば友がいる」他人と生きるということ、冷たく感じるかもしれないが、今子ども達の周りには、家族がいて友だちがいて私達教師がいます。あたたかな環境の中で、力をつけ、かがやく自分になってほしいと強く願っています。

子ども達の力は本当によくて、たくさんのかを吸収し、日々大きく成長しています。そんな子ども達に負けず劣らず私も子ども達と共に成長していきたいと思っています！